



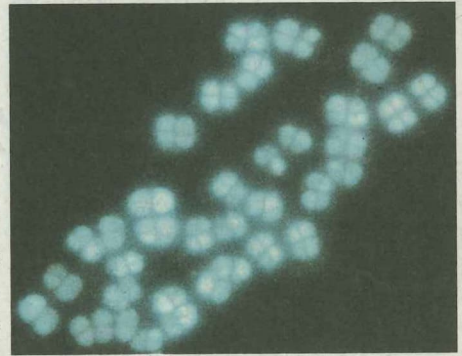
横川隆志さん

私は、生物がタンパク質をどのように作っているかに興味を持って研究しています。その研究材料として現在、扱っているのが「メタン菌」。メタンと聞くと地球温暖化の原因の一つである「メタンガス」を想像する人が多いかと思えます。この菌は家畜の胃など、酸素のない環境に生息し、ガスを作り出しています。研究を続ければ、地球温暖化を抑制するヒントが得られるかもしれません。

実はこの生物を詳しく研究している研究室は、日本には数えるほどしかありません。なぜ、

メタン菌 今の評価気にせず

培養に手間がかかるメタン菌
名古屋大 浅川晋教授提供



あまり研究している人がいないのか。それは、研究材料を確保するための培養が面倒だからです。メタン菌を培養するには、専用の容器で酸素を徹底的に取り除いて、増殖できる環境をつくる必要があります。とても手間がかかるのです。

研究者が少ないために、研究を続ける費用も得にくいです。そこで私の研究室では実験道具を手作りします。例えば実験でよく使う使い捨ての道具は一つ千円もします。でも、ホームセンターで買えるような材料をうまく使えば一つ10円ほど。もち

ろん同じように使えることは確認済みです。知恵を絞れば、研究を続ける方法はいくらでもあるのです。

こんなに大変なのに、なぜ、私はこのメタン菌にのめりこんでいるのでしょうか。ひと言でいうと「運命」でしょうか。私は他人と同じものを研究したくないと思ってきました。あるとき、全く関係ないと思って研究していた二つのマニアックな内容がメタン菌で重なっていることに気づいたのです。「メタン菌はすごい」と心の底から思いました。それと同時に、そのすごさに気づけたのは、きつと世界で私しかないのでは、とも思ったのです。

変わっているなと思う人もいるかもしれませんが。でも、例えば昨年、米大リーグのロサンゼルス・ドジャースで山本由伸投手が大活躍しました。彼の投球フォームは、唯一無二と言われています。今でこそ「体の動きを追求した一番効果的な投げ方」などと言われますが、これまでの常識を打ち破り、山本投手自身が研究を重ね、たどりついた投げ方だと思えます。

これを読んでいる中高生の皆

さんにお伝えしたいのは、「常識にとらわれず、自分が面白いと思ったことは、徹底的に続けてほしい」ということです。

私の研究は歩みが遅くても成果が始めています。2019年には世界的に有名な科学雑誌「ネイチャー」の姉妹誌に研究内容が掲載されました。対象が「人間」だったら記者会見を開けたかもしれません。しかし、私の研究しているのはメタン菌。周囲の反応は冷ややかなものでしたが、それでいいと思っています。今の周囲の評価は関係ありません。いつか、何かにつながるかもしれない信じ、研究を続けることが大切だと思います。

(構成・板倉陽佑)

よしがわ・たかし 工学部化学・生命工学科教授、専門はタンパク質の生合成、RNAの機能解析。東京工業大学大学院修了。博士(理学)。1964年生まれ。



常識にとらわれない